

2021年2月14日(日)

バードウォッチング入門⑪

～越冬期の小鳥たち～

縄張りをつくったり、群れになったり、小鳥たちの冬の過ごし方は種類によって様々です。身近な場所でもよく見られる小鳥を中心に観察しながら、それぞれの特徴を学びました。



最初はレクチャールームで資料説明。スクリーンに画像を映し、ボイスペンで鳴き声も確認しました。



公園ボランティアグループ「葦の会」による双眼鏡の使い方の紹介。小鳥の観察はスコープよりも双眼鏡が役に立ちます。



干潟側の土手にシロハラ羽根が散らばっていました。ノスリに襲われた痕跡で、小鳥が多い場所には捕食する猛禽も飛来します。



今回はヨシ原一周コースを右回りと左回りの2グループに分かれて観察しました。



北側の樹林帯でエナガの群れを確認。園内の樹林が発達し、近年よく見られるようになってきました。



エナガは配布した資料に掲載していなかったため持参の図鑑で確認。参加者同士で図鑑を見せ合いながら観察しました。



枝から枝へと動き回るウグイスを観察。茂みに隠れて行動するので、じっくりと観察できない鳥です。



冬鳥のシロハラを観察。木陰など薄暗い場所にいることが多い鳥で、地面に降りてエサを探している様子でした。



枝先に冬鳥のジョウビタキが出現しました。ジョウビタキは単独で縄張りを持って冬を過ごします。



←オス

メス→

ジョウビタキのオスは翼と顔が黒色で、メスは全体的に茶色っぽく、どちらも翼に白い紋があるのが特徴です。

今回はやや風が強く、出現しにくい条件でしたが、小鳥たちが活動する様子を確認できました。ちょこまかと動き回るのを観察しにくいこともありますが、身近な場所でも探してみてください。